

日南看護専門学校 単位認定試験 解答用紙

科目	老年看護学方法論2	講義時間数	15/30時間	配点	35/100点中
講師名	藤田 めぐみ	試験月日	令和7年11月17日(月)		
学籍番号		学生氏名			

【問題1】高齢者の薬物動態の特徴で正しいのはどれか。選んだ理由も述べなさい。

(解答: 2点 理由2点)

1. 薬物の吸収の亢進
2. 薬物の代謝の亢進
3. 薬物の排泄の増加
4. 血中濃度の半減期の延長

【問題2】老化による身体機能の変化と薬物動態への影響との組み合わせで正しいのはどれか。

(2点)

1. 血中蛋白の低下→薬効の減少
2. 腎血流量の低下→薬効の減少
3. 肝血流量の低下→薬効の増大
4. 消化機能の低下→薬効の増大

【問題3】高齢者の薬物動態について()に当てはまる言葉を記入しなさい。(各1点×6)

1. 高齢者では薬物血中濃度が(①)がしやすい。そのため、(②)が出やすい。
2. 内服は小腸で吸収された後に肝臓で(③)を受ける。これを(④)という。
3. アルブミンと結合した薬は効果が(⑤)くなる。そのため、高齢者は薬の効果が(⑥)く現れる。

【問題4】高齢者の薬物血中濃度が上昇しやすい加齢変化(理由)を3つ答えなさい。(各1点×3)

【問題5】それぞれの状況下にある高齢者が正しく内服できるための対処方法を2つずつ答えなさい。

(各2点×2)

1. 多剤を服用する場合
2. 自己管理につなげる場合(退院後は独居生活。認知症はない。)

【問題6】退院に向けた取り組みと看護の役割について（ ）に当てはまる言葉を記入しなさい。

- | 中点1001\38 | 点5 | 問答08\21 | 看護学基礎 (各1点×5) | 看護学 |
|---|----|---------|---------------|-----|
| 1. 安静による合併症や廃用症候群を予防するためには（ ① ）を行うことが大事である。 | | | | |
| 2. 行動範囲の拡大を行うときには、不快症状を出現させないためにも（ ② ）にあった適度な運動と効果的な（ ③ ）のバランスを大事に介入していかなければならない。 | | | | |
| 3. 高齢者自身が自分に自信を持ち、自己効力感を高めるためには（ ④ ）を活用し、ADLやQOLの向上を図ることが大事である。 | | | | |
| 4. 退院調整の際は、高齢者や家族が安心して退院できるように（ ⑤ ）と連携して退院の支援や利用できる制度や社会資源へつなげる調整をしなければならない。 | | | | |

【問題7】事例に対する以下の問いに答えなさい。

80歳代後半の女性が腰と膝の痛みを訴え、1人で外来受診された。円背があり杖を使用しているが、大きなかばんを手に持ち不安定な歩行である。不慣れな様子で不安そうに周囲を伺っている。受付で説明を受ける際、同じことを何度も聞き返す姿がみられた。

- ①看護師としてどのようなことに配慮しながら診察室へ誘導し、環境を整える必要があるか。高齢者の身体特性を踏まえて述べなさい。（5点）
- ②診察の結果、医師から鎮痛剤が定期で処方された。自宅でしばらく様子を見て2週間後に再受診するよう説明された。診察前の患者の状況を考えたとき、診察が終わった後の患者に対しどのような対応が望ましいか簡潔に述べなさい。（5点）

【問題8】介護老人保健施設の特徴として、介護する家族のストレスを緩和させるためにショートステイを通じた休息や息抜きを提供することを何というか記入しなさい。（1点）

日南看護専門学校 単位認定試験 答案用紙

科目	老年看護学方法論 2	講義時間数	15/30時間	配点	35点
講師名	藤田 めぐみ	試験月日	令和7年11月17日（月）		
学籍番号					

問 1 (2点×2)		解答 4 吸収、分布、代謝、排泄の低下に伴い、 ↓影響あり 薬の効果が現れにくく、半減期延長により薬の効果時間延長となる。			
問 2 (2点)		3、4			
問 3 (1点×6)		① 上	② 副作用	③ 代謝	④ 初回通過効果
		⑤ 低	⑥ 高		
問 4 (1点×3)		腎血流量の低下 解毒代謝能の低下 糸球体ろ過率の低下			
問 5 (2点×2)		1 ・包化可。 ・薬の作用は必ず適切に知ること、お薬手帳の活用をすすめる。 2 ・服薬カレンダーを活用可。 ・食事を一緒に、内服の仕方を貼り紙可。			
問 6 (1点×5)		① 早期離床	② 活動耐性	③ 休息	④ 残存機能
		⑤ 他職種			
問 7 ① (5点)		円背 あり杖を使用していることから、壁や手すりを使用可。もしくは、腕や体を支え、 かばんを看護師が持つ。診察室へ近い場所で、待つを工夫、転倒防止可。 受付での説明は理解できたかを確認し、診察室の場所を把握できているか、など 理解を確認可。			
問 7 ② (5点)		受付で説明時に、何度も聞き返す等があったことから、医師の説明、薬の内服方法、患者本人の 不申を話可と伝えてきたのかを確認し、患者が必要とすれば再度説明可。 患者本人に理解できているかの確認で、説明を工夫。			
問 8 (1点)		レスパイトケア			